

Book Review



ゼロから見直す根尖病変 診断・治療コンセプト編

倉富 覚、著



Reviewer

千葉英史 Hidefumi Chiba
(千葉県・千葉歯科医院)

A4判変、144頁
オールカラー
定価(本体8,500円+税)
医歯薬出版刊



北九州市開業の倉富覚、先生が、感染根管治療の本を上梓された。師と仰ぐ下川公一先生をさしおいて大丈夫?と読み始めたが、師の考えや思いを適切に伝えようという気持ちが、文章とともに症例に溢れていて、見事な伝道書となっている。また、40歳代半ばの著者が、自身の成長過程を見直して、若い臨床医に細やかな助言と警鐘を贈るとともに、新しい器材の活用を含めて今後のGPの根管治療のあり方を示しており、ベテランにとっても臨床を見直す良い機会になるに違いない。目次(Contents)に「さあ、ショータイムだ!」とあるように、著者独特の遊び心も手伝って、楽しく学べる一冊となった。

書名の“0”

書名の「0から見直す根尖病変」を見て、すぐには内容をイメージできなかったが、読み進むうちにその意味が理解できた。「一から見直す」は、既成の手順を検証することだが、著者は、「壁にぶつかったときにはコンセプトと術式をリセットする」(「はじめに」より)ことを重要と考えて「0から」を選んだ。

ここでいう「0」は、根尖病変の治療の原点ということなのかもしれないが、示された数多くの症例を見ていると、臨床の原点に立ち帰る必要性を強

調しているように思える。

臨床の“0”

Chapter1「根管治療における診査・診断の重要性」は、GPの臨床において欠くことのできないデンタルX線写真(以下、デンタル)をどう最大限に活かすかが、CTとの比較も交えて詳細に述べられており、その真似をすることができれば、すべての分野の治療や処置の質を向上させることにつながるポイントである。

とにかく300枚超のデンタルが美しい。私も数冊の本の出版に関わり、デンタルを鮮明に印刷物で表現することの大変さを知った。本書のその鮮明さは素晴らしく、著者の日常臨床の質の高さと自著への熱い思いを感じた。

Chapter2「治療計画の立案」も、1歯の治療にとどまらず、長期にわたる口腔の健康維持のために何をすべきかが書かれており、口腔単位での見方や患者との関わり方など、これもすべての分野につながる臨床の心構えであり、Chapter1, 2を通じて、臨床の原点を見直すことの大切さを説いている。

根管治療の“0”

Chapter3「根管拡大の基本概念」では、歯内療法に取り組むにあたって知っておくべき基礎知識、すなわち、非感染根管と感染根管との区別、根尖病変と根尖部吸収、などが、下川先生

の作製された組織標本などを駆使して明解に説明されている。これを知らずに根管治療はできない。書名に「根尖病変」を入れたのは、この基本概念を理解することの重要性を強調したかったためと想像している。

治療手技の“0”

Chapter4「感染根管処置の盲点」、Chapter5「部位別の解剖学的特徴と根管拡大のストラテジー」では、手技に関わる基本的な考え方を伝えている。解剖学的知識を押さえることは「傾向と対策」の傾向を知ることであり、スムーズに根管治療を進めるうえで必須で、また、途中で迷った時に第一に見直すことでもある。対策としては、根管の水平的拡大、ファイリングのあり方など、ハウツーがたくさん詰まっている。デンタルに加えて、根管口を明示した咬合面観の写真が豊富にあり、マイクロスコープ以前に、この見方を重視して著者が多くを学んできたことを示している。

次の“0”

「手技・難症例へのアプローチ編」が続いて出版されるとのこと。覚、(サトシ)ショー第二幕を楽しみにするとともに、最初に師事した故山内厚先生と下川先生、二人の恩師に捧げる本書を新たな0として、著者がさらに飛躍されることを期待している。